

# 平成 28 年度 学校自己評価報告書

学校法人 久留米ゼミナール

専門学校 共生館国際福祉医療カレッジ

# 平成 28 年度 学校自己評価報告書

## 1. 学校の教育目標

教育目的は、学則第 1 条に明記している「社会福祉士及び精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目の履修、また、社会福祉主事、医療・調剤事務を行える人材を養成することを目的とすることである。

### (1) 評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	評価
・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色をとらえているか	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
・各学科に教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科などに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

●本校の教育理念、また、各学科の教育目標等は「学生便覧」に記載しており、オリエンテーションやホームルーム等を通し周知徹底している。ホームページもデザイン・内容を随時見直し、学校情報の充実を図っている。また、実習・ボランティアを通じた校外活動も継続している。

### 【学校関係者評価委員会意見】

※自己点検結果の各項目について、各委員が同意

その他の意見については特になし

### 【評価結果活用実績】

#### ○ 本年度への活用

①学校の概要、目標及び評価 ②学科の教育（カリキュラム、年間教育） ③教職員 ④キャリア教育、実践的職業教育 ⑤様々な教育活動、教育環境 ⑥学生の生活支援 ⑦学生給付金、修学支援 ⑧学校の財務 ⑨学校評価 の各項目をHPに記載し、会議時の説明及び委員意見等を反映

#### ○ 次年度への活用予定

HPを更新し、関係者等に周知

## (2) 学校運営

評価項目	評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
・教務、財務などの組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会などに対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

●本校の組織運営及び管理は、学校法人久留米ゼミナールの理事会、評議員会のもと専門学校においては校長を責任者とし、職員会議を議決機関とし意思決定を行っている。また、本校の校務分掌組織は組織図に明記されている。なお、限られた人員により運営しているため、各職員に振り分けられる担当業務も多数となり、各担当業務の合理化と平準化が検討課題である。

●年度毎に「学年暦」を作成し、年度初めの全体会議で提示している。

●各部署、関係法令に遵守し、学校運営を行っており、場合によっては関係機関へ問い合わせ等を行い対処している。

●法人部署長会議や職員会議を通じ、教育活動について全職員に周知徹底をしている。

●情報システムによる業務の効率化については、依然として一部で紙媒体を使用している状況である。

### 【学校関係者評価委員会意見】

※「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」の評価は、今後カリキュラム変更等に伴い評価を上げて良いのではないかと。

### 【評価結果活用実績】

- 本年度への活用  
各委員の意見を参考にしながら、カリキュラム変更を検討していく。
- 次年度への活用予定  
上記に同じ

(3) 教育活動

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業、関係施設などや業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習など）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施、評価体制はあるか	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価、単位認定、新旧、卒業判定に基準は明確になっているか	4
・資格取得などに関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
・職員的能力開発のための研修等が行われているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

●人材（専任教員）の確保については専修学校設置基準を始めとした関係法令により教員資格が定められており、基準に従った人材を確保、育成をしている。また非常勤講師についても基準を満たした第一線で活躍している人材の確保ができており、多くの現役の方々の協力を得ている。ただ、専任教員の確保については、多様化した学生の現状から専門性レベルだけでなく、学生にわかりやすい授業ができる教授力を備えた教員の育成、確保の継続が必要である。

●カリキュラムは各学科の教育目標を基礎に、法令等の指定を受けた学科はそれぞれの資格取得に関わる指定基準を満たしたものとなっている。

●学生が授業を受けるにあたって、シラバスを配布し、授業の位置付け、授業の目的、授業の到達目標、成績評価の方法と項目、授業計画等を予め知り、授業に興味、関心を持ち、理解を深められるようにしている。

●学生による授業評価は、「授業アンケート」をすべての授業科目に対して実施している。

●成績評価及び単位認定は、「学則」に従い厳正に行っている。

●資格取得は、特別授業、放課後学習、受験対策講座、模擬試験等を計画的に実施、さらに、より資格合格向上のために学生への個別指導を強化している。

●カリキュラムの見直しについては、「人間力・社会人基礎力の向上」の考えを念頭におき、特に社会福祉学科の科目内容を見直し、演習科目の強化の実施、次年度以降、新たに接遇系の内容も取り入れる予定である。

【学校関係者評価委員会意見】

- ※ 社会福祉学科の接遇系授業の強化をお願いしたが、新たに授業で取り組んでもらえるようで安心した。
- ※ 学生数が少ない中でのコミュニケーション問題などはないか。

【評価結果活用実績】

- 本年度への活用
  - ① 次年度以降の授業展開に向けて、授業内容を検討していく。
  - ② 声を掛けやすい状況だが、反面、精神的に落ち込んだ学生がいた場合、周りに影響しやすい状況でもあるので、周りへの影響を最小限に留めるように学生ケアを教職員で取り組んでいく。
- 次年度への活用予定
  - 上記に同じ

#### (4) 学修成果

評価項目	評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	3
・退学率の低減が図られているか	2
・卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

●就職に向けた相談、支援、指導は、本人・担任・就職支援室が一体となり目標を達成している。

●担任は、日常の出欠席や遅刻、学校生活や授業態度などについて個別面接を通して定期的に確認し、退学の兆候やサインを見逃さないようにし、退学の予防を図っている。しかし、毎年、基礎学力や生活態度に不安がある学生や、心身の不調を抱えているが申告しないまま入学する学生らが相当数入学してきており、教員の個人的な努力では、退学の予防を対応しきれない状況になってきている。また、保護者の無関心や、責任転嫁といった事例の急増により、保護者の協力を得ることができなくなりつつある。教職員全員で学生相談を行い、退学を未然に防ぐ努力をしている。

#### 【学校関係者評価委員会意見】

※「退学率の低減が図られているか」の評価が低い理由をお聞きしたい。

※「学修成果・資格取得率の向上が図られているか」の評価に対し、どのような対策を行っているか。

#### 【評価結果活用実績】

##### ○ 本年度への活用

- ・実務に直結した授業が多いため、乗り越えられない場合が退学につながりやすいと考えている為、学生へのフォロー体制を強化していく。
- ・社会福祉学科は、今年度より MOS 検定 (Excel、Word) 取得を新たに実施した。取得率向上の為、更なる指導強化を図っていく。さらに次年度は介護事務検定も取り入れる予定である。

##### ○ 次年度への活用予定

次年度も現要領を継続、特に退学率の軽減に重点を指向し、三者面談、個別面談を適時行い、親身な心情(身上)の把握による適切な指導を継続して行い、全体で情報共有していく。

(5) 学生支援

評価項目	評価
・進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	4
・社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
・高校、高等専修学校との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

- 就職活動支援の専門部署として、就職支援室を配置している。
- 就職対策として、卒業生講話会、スマイル講座、マナー講座等を新しく取り入れ、指導強化した。
- 学生の相談、援助については原則担任が対応している。また、必要に応じ、学生の状況を保護者へ連絡し、家庭と協力した相談、援助を行っているが、様々な理由で、保護者の協力を得にくい環境の学生も年々増えている。
- 日本学生支援機構を始めとした公的機関の奨学金制度の案内及び取次ぎ事務を進めている。また、学費に関しては、分納、延納制度を通して支援を行い、柔軟に対応している。
- 学生の健康管理に対し、チューター活動、個人指導、年毎の健康診断等を通じ、把握に努めている。
- 課外活動に対しては、ボランティア情報を学生に広く周知し、資格の面でも支援している。
- 自立した社会人ニーズを身に付けさせる為に、学生のマナー指導に全職員で取り組み又、外部講師による講座も取り入れている。
- 高校等との連携した教育に関しては、本校の福祉、介護の授業を受講し、又、現場実習体験を通じ、高校との連携を行っている。

【学校関係者評価委員会意見】

※自己点検結果の各項目について、各委員が同意  
その他の意見については特になし

【評価結果活用実績】

- 本年度への活用  
学生のボランティア参加に対する現要領を継続し、レクリエーション・インストラクター資格取得に対して支援
- 次年度への活用予定  
次年度も現要領を継続

(6) 教育環境

評価項目	評価
・施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
・学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4
・防犯に対する体制は整備されているか	3

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

●施設・設備は、現行の教育に十分対応できるものであり、専門教育に必要な設備・機器は、劣化への対応はもちろんのこと、社会ニーズや教育内容、教育方法の変化、発展に合わせて更新、改善できるように管理している。

●学習方法、指導方法の多様化が進んでいることから、特に視聴覚、IT関連の設備・機器については、年間の使用計画と予算に基づいて、毎年、定期的に可能な限り最新のものに更新している。

●実習先は、指定の要件を満たし、学科の教育目標を達成するために適した所を第一に考慮し、学生の学習の場として相応しいかどうかを十分に検討して選定し、依頼している。

●実習中は、専任教員と実習指導担当教員を実習先に配置し、また、定期的に訪問し、学生の状況を把握すると共に実習指導者とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。

●防災設備点検は、法令及び消防計画に基づき毎年1回実施している。又、学生を交えた避難訓練も継続して実施している。

【学校関係者評価委員会意見】

※自己点検結果の各項目について、各委員が同意

その他の意見については特になし

【評価結果活用実績】

○ 本年度への活用

消防署への届出をもとに、消防署の協力・指導による避難場所への実践的な防災訓練の実施

○ 次年度への活用予定

・防犯対策については、県や警察からの案内を学生に周知、また公的機関への研修依頼も検討していく。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

- 少子化、福祉分野の人気低迷に伴い、依然学生募集が厳しい状況下、高校訪問や各進路ガイダンスへの参加、オープンキャンパス等にて、適切・適正な情報提供を行い募集活動を行っている。
- 高校訪問・進路ガイダンスにおいては、地元を中心に沖縄県を含む九州一円を募集エリアとし、全職員で取り組んでおり、高校教員・高校生への宣伝強化を図っている。
- 入学案内・パンフレット・各種チラシ・ポスター・ホームページ・DM等での情報提供については、高校教員・高校生・保護者に分かりやすく興味を持って見てもらえる必要があり、様々な観点から適切性について常に点検している。
- 教育成果として、在校生の学校生活状況や実習活動状況、資格取得状況、就職内定報告等、適宜出身高校へ報告を行っている。
- 学納金は、社会情勢や他校の状況等を踏まえて毎年検討を重ねており、妥当なものであると考えている。

【学校関係者評価委員会意見】

※広報活動をする際にどの様に、社会福祉の道に導いているのか。

【評価結果活用実績】

- 本年度への活用  
現状、学生は福祉＝介護の意識が強く、まず介護福祉と社会福祉の違いを説明し、介護だけではないと伝えた上で、仕事の内容、場所、将来性、やりがいも伝えており、その中で希望分野的に少ない中、大学と専門の違い、本校の強みを説明し募集活動を行っている。
- 次年度への活用予定  
次年度も現要領を継続

(8) 財務

評価項目	評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
・予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

●学校運営にとって、財政基盤の安定確保は最重要課題であり、18歳人口の減少や、大学全入時代の環境のなか、引き続き学生確保は厳しく、法人全体としても厳しい予算編成を強いられており、昨年度から、全校学生数が減少し、厳しい状況が続いている。今後も、時代に対応できる教科・カリキュラムの見直しを図り、又、新たな学科新設に向けて取り組んでいる。

●会計監査については、法人本部の所管で、外部監査、及び内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。

【学校関係者評価委員会意見】

※自己点検結果の各項目について、各委員が同意

その他の意見については特になし

【評価結果活用実績】

○ 本年度への活用

高卒者は、受験資格は誰でもあるが、既存の学生と年齢差がある方は特に慎重に受け入れを行っている。

○ 次年度への活用予定

次年度も、より理解容易・分り易いものへ修正を図り、HPへ反映

社会福祉士に現役で合格できる専門学校の仕組みを作っているのは、全国で本校のみというセールスポイントを継続してPR

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実態と問題点の改善を行っているか	3
・自己評価結果を公開しているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

●本校は、専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあつてはその指定に関わる基準等を遵守し、適正な運営をしている。

教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準を基本に、設置学科に適用される社会福祉士、精神保健福祉士に関する法令等をはじめ、関係する諸法令を遵守している。

●個人情報については「個人情報保護基本方針」「個人情報の保護に関する規則」を定め、継続的に保護を実施している。

●自己点検・自己評価については、実施方法に関する知識不足・評価要因が確保できない等の理由により実施体制の構築が進まず、平成19年度から平成24年度までは、授業アンケートによる授業評価程度であったが、平成25年度より現行の形となり、HPで自己評価の公開を継続している。

【学校関係者評価委員会意見】

※自己点検結果の各項目について、各委員が同意  
その他の意見については特になし

【評価結果活用実績】

- 本年度への活用  
各クラスホームルーム（チューターアワー）や面談での注意喚起を継続
- 次年度への活用予定  
次年度も現要領を厳正に継続

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	3
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

●学生のボランティア活動の奨励、支援については、福祉系学科においては実習先からの依頼を始めとして積極的に推進、支援している。また、各クラスの担任よりボランティアの案内を学生へ行い、学生も積極的に参加している。今年度から、外部の音楽鑑賞講座に協力し、その実施日に教室を提供している。

【学校関係者評価委員会意見】

※自己点検結果の各項目について、各委員が同意  
その他の意見については特になし

【評価結果活用実績】

- 本年度への活用  
ボランティアへの積極的参加について、各職員がホームルーム（チューターアワー）で奨励及び紹介し、且つ全員が確認できるように各案内を掲示板に掲示し、奨励を継続した。
- 次年度への活用予定  
次年度も引き続き、参加奨励を継続、施設を活用した社会・地域貢献を検討していく。